

チリ教育テレビ・プロジェクト 計画打合せ調査団報告書

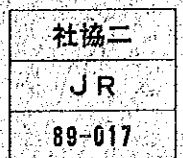
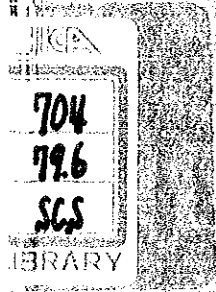
平成元年 9 月

国際協力事業団
社会開発協力部

チリ教育テレビ・プロジェクト計画打合せ調査団報告書

平成元年 9 月

国際協力事業団





JICA LIBRARY



1112284(3)

序 文

チリには現在、五つのテレビ放送系統があるが、本格的な教育番組については、チリ・カトリック大学（TELEDUC）が企画、制作したものを週数時間程度同大学のテレビ局を通じて放映しているにすぎない現状である。このため、チリ政府は、同国における教育テレビ放送の拡充、改善を図る目的で、我が国に対し同大学への技術協力を要請越した。

これを受けて国際協力事業団は、昭和61年3月に予備調査団を、昭和62年3月に事前調査団を派遣して協力実施の可能性、協力計画の大枠等につき調査を行い、さらに同年11月には長期調査員を派遣して技術協力の対象分野を確認するとともに、主に技術的観点から協力実施計画、技術移転計画及び供与機材の機器構成等につき調査、協議を行った。

これらの調査結果を踏まえ、昭和63年4月、実施調査団を派遣した結果、同調査団とチリ政府関係者との間で署名された討議議事録（R/D）及び暫定実施計画（TSI）に基づき、チリ教育テレビ・プロジェクトに係る3年間の技術協力が実施される運びとなった。

上記背景により、今般、協力開始から半年余り経過した立ち上がり時期におけるプロジェクトの現況につき調査し、問題点等につき現地関係者と協議を行い、その解決を図るとともに、今後の技術協力計画についての見直し等を行うため、平成元年4月2日から4月11日まで郵政省放送行政局企画課難視聴対策室課長補佐・本田廣忠氏を団長とする計画打合せ調査団を現地に派遣した。

本報告書は、同計画打合せ調査団の調査並びに協議事項をとりまとめたものである。

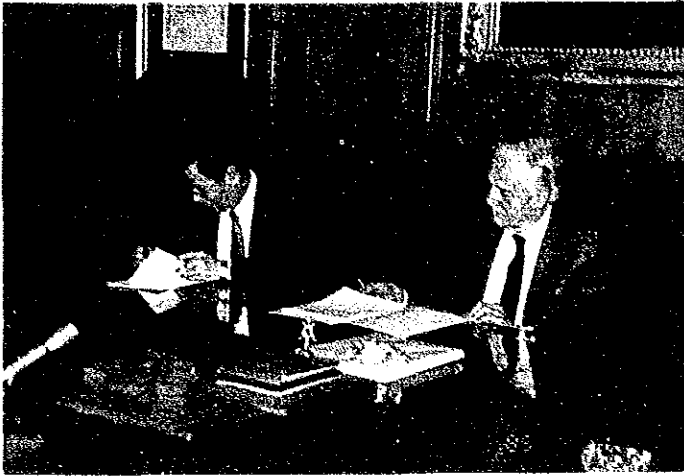
終わりに、調査の任にあられた調査団各位及び団員派遣に際しご協力いただいた外務省、郵政省、在チリ日本国大使館並びに内外関係機関の方々に対し、深甚なる謝意を表するとともに、併せて今後のご支援をお願いする次第である。

平成元年 9 月

国際協力事業団

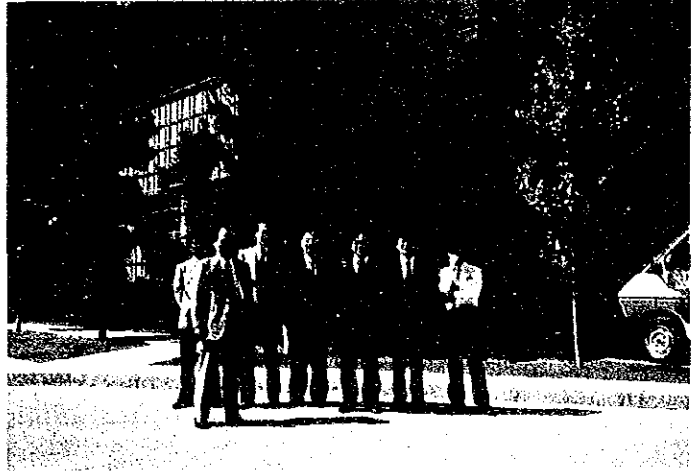
社会開発協力部

部長 小 泉 純 作



◀ ミニッツ署名・交換
(左：本田団長、右：Correa チリ・カトリック大学学長)

▶ TELEDUC 敷地内にて記念撮影
(左から前田専門家、又吉団員、祝リーダー、
本田団長、大西団員、鈴木団員、白木調整員)



◀ Guzman 教育省大臣表敬 (中央)

▶ 編集機据付け風景
(左：前田専門家、右：飯田短期専門家)



目 次

序	文	
写	真	
1.	調査団派遣	1
1-1	調査団派遣の基本方針及び調査内容・項目	1
1-2	調査団の構成	2
1-3	調査日程及び主要面談者	2
2.	調査・協議結果要約	4
3.	プロジェクトの進捗状況	8
3-1	主要活動実績	8
3-2	技術移転達成状況	8
3-3	専門家派遣	10
3-4	研修員受入れ	12
3-5	機材活用及び維持管理状況	13
3-6	ローカルコスト負担状況	13
4.	今後のプロジェクト実施計画	15
4-1	主要活動計画	15
4-2	専門家派遣	18
4-3	研修員受入れ	19
4-4	機材供与	19
4-5	ローカルコスト負担	20
5.	プロジェクト実施体制	21
5-1	組 織	21
5-2	予 算	23
5-3	カウンターパート及び要員	24
5-4	施設・建物	24

6. TELEDUC 将来計画	26
6-1 番組の拡充と編成	26
6-2 登録学生数、テキストの拡充	27
6-3 予算計画	27
6-4 要員計画	28
6-5 新番組開発計画	28
7. ミニッツ	30
7-1 ミニッツ署名に至る経緯	30
7-2 署名ミニッツ	48
附属資料	53

1. 調査団派遣

1-1 調査団派遣の基本方針及び調査内容・項目

1-1-1 基本方針

協力開始から半年余り経過した立ち上がり時期にあたり、R/D及びTSIに比べて以下の諸事項につき、チリ側関係者及び日本人専門家と協議を行い、同協議の結果をミニッツにとりまとめることとする。

- (1) 現在までのプロジェクトの進捗状況及び実施上の問題点
- (2) 今後のプロジェクト実施計画
- (3) プロジェクト運営に係るその他事項

1-1-2 調査内容・項目

- (1) プロジェクト進捗状況
 - 1) 主要活動実績（技術移転進捗状況を含む）
 - 2) 専門家派遣・活動状況
 - 3) 研修員受入れ状況
 - 4) 機材の引取り、管理状況
 - 5) ローカルコスト負担事業
 - 6) その他
- (2) プロジェクト実施体制
 - 1) 組織・要員（カウンターパート配置状況）
 - 2) 予算
 - 3) その他
- (3) 今後のプロジェクト実施計画
 - 1) 主要活動計画
 - 2) 専門家派遣計画
 - 3) 研修員受入れ計画
 - 4) 機材供与計画
 - 5) ローカルコスト負担計画
 - 6) その他
- (4) TELEDUC 将来計画
- (5) その他事項

1-2 調査団の構成

- (1) 本田 廣忠 (総括) 郵政省放送行政局企画課難視聴対策室課長補佐
- (2) 又吉 元亮 (制作技術) 日本放送協会技術局システム技術部チーフエンジニア
- (3) 大西 誠 (教育番組制作) 日本放送協会番組制作局教育番組センター・チーフプロデューサー
- (4) 鈴木 愛二 (協力企画) 国際協力事業団社会開発協力部海外センター課

1-3 調査日程及び主要面談者

月/日	時間	行程	車 輛	備 考
4/2 (日)	～13:30	到着 (RG-920)	ルイスオルギンス TEL: 332375 (マイクロ バス1台)	ホテル: EL CONQUISTA- DOR TEL: 6965599
3 (月)	9:30～11:30	派遣専門家との打合せ (CANAL 13)		白木順一調整員 9:00ホテル待 合せ
	12:00～	JICA打合せ (LOS CONQUISTADORES No.1700, 22階、TEL:2326283, 2318159)		
	16:00～	ODEPLAN表敬 (企画庁) (ENRIQUE AMEZAGA 技術 協力部長) (AHUMADA 48, 4階、 TEL: 722033)		
4 (火)	10:30～11:00	MISTERIO DE EDUCACION (教育省) (JUAN ANTONIO GUZMAN, 大臣) (ALAMEDA 1371, TEL: 710292 秘書:GLADYS)		10:00ホテル待 合せ
	11:30～	UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE (JUAN DE DIOS VIAL 学長) (ALAMEDA 340, TEL: 2224516)		TELEDUC主催 昼食会
	16:00～18:00	TELEDUC関係者との協議 (場所: UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE) Alfonso Gomes 局長 ほか		
5 (水)	9:30～12:30 15:00～17:00	TELEDUC関係者との協議 (場所: UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE) Alfonso Gomes 局長 ほか		

月/日	時 間	行 程	車 輦	備 考
4 / 6 (木)	9 : 30 ~ 12 : 00	TELEDUC関係者との協議 (場所: UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE) Alfonso Gomes 局長 Ricardo de la Fuente ディレクター		
	15 : 00 ~	プロジェクト関係施設視察 PAULINA Dominguez教授 (心理学) ほか		
7 (金)	9 : 30 ~ 12 : 30	ミニッツ打合せ		
8 (土)		団内打合せ		
9 (日)		資料整理		
10 (月)	9 : 30 ~ 10 : 00	外務省表敬 (CLAUDIO MAC-AULIFEE 技術協力部長) (SAN MARTIN 88, 1階、 TEL: 6966495)		
	10 : 30 ~	ODEPLAN表敬 (企画庁) (ENRIQUE AMEZAGA技術 協力部長) (AHUMADA 48, 4階、 TEL: 722033)		
	11 : 30 ~	大使館表敬 (野見山大使、福島書記官) (AV PROVIDENCIA No2653 19階、TEL: 2321807)		
		団長主催昼食会		
11 (火)	9 : 30 ~ 10 : 00	ミニッツ署名		
	11 : 00 ~	JICA打合せ (LOS CONQUISTADORES No.1700, 22階、TEL: 2326283, 2318159)		
	21 : 00 ~	帰国 (LA-140)		

2. 調査・協議結果概要

本調査団は滞在期間中、教育省、企画庁及び外務省等チリ側政府関係機関を表敬訪問したが、表敬の際、いずれも本プロジェクトに対する日本側の協力に謝意を表するとともに本プロジェクトの推進にあたり、協力を惜しまない旨の積極的発言がなされる等、先方の関心の高さがうかがえた。

また、TELEDUC関係者との協議を通じて、プロジェクトの円滑な実施のため積極的に取り組んでいる姿勢が看取された。

本件調査・協議の概要は以下のとおり。

2-1 プロジェクト進捗状況

2-1-1 主要活動実績

本プロジェクトは本格的実施の前段階（準備期間）の状況にある。

特に日本人専門家による技術移転は、主要な供与機材が未到着であることもあり、現在、主に教材によるセミナー、OJTによる研修を通じて行われており、本格的な実施に至っていない。

1988年度供与機材については、編集システムの据付けが4月5日行われ、またコンピュータ・グラフィックシステム(C・G)が5月13日、OB・VANが6月、各々到着の予定であり、これにより主要機材が出揃うこととなることから、1989年度から本格的な技術移転が可能となる見込みである。

2-1-2 専門家活動状況

日本人専門家は技術移転のため最大限の努力をしており、チリ側もこれを高く評価している。

一方、プロジェクトの円滑な技術移転を図るうえで言語の障壁、番組制作・編成に関する考え方の相違等、若干の問題も存在しているが、これは本プロジェクトが初期段階であることから生じる過渡的問題であり、日本人専門家の努力及び適切な指導・助言により徐々に改善されつつある。

1989年度においては、上述のとおり主要な供与機材が出揃うことから、これを使用した実践指導が可能となり、日本人専門家による技術移転がより一層効果的に行われることが期待できる。

2-1-3 研修員受入れ状況

チリ側研修員(カウンターパート)の日本における研修は、カウンターパートの日本における教育テレビ番組の制作・編成に対する理解を促進し、相当の成果を挙げている。

日本で研修を受けたチリ側カウンターパートは、いずれも最先端をいく日本の番組編成・制作、制作技術、C・G及び調査・研究に瞠目しており、その経験を通じ、日本人専門家とチリ側カウンターパートの相互理解が深まり、日本人専門家の現地における指導がより円滑に行われるようになったこと等、種々副次的効果を生んでいる。

2-1-4 機材、設備等の状況

チリ側はプロジェクトの円滑、かつ効果的な実施に必要な施設・建物の整備に努めていることが認められる。日本人専門家用執務室、編集機室及びC・G室については既にスペースの確保、改善が行われており、またOB・VAN供与後の駐車場についても準備が進められている。

既供与機材の引き取り及び維持・管理状況については、特段問題はなく、概ね順調に実施されている。

なお、一部供与機材に対する税金課税(例えばランドクルーザーに対する通行税課税)の問題があったが、既にチリ側により支払い措置が行われており、プロジェクト実施上、障害はない。

2-2 プロジェクト実施体制

チリ側では、今次調査団の訪問直前にディレクターを現行の1名から2名に増員し、制作チームを2チーム体制とする等組織、要員の充実を図っている。

これに対し、本調査団から、チリ側の努力は多とするも、上記2チーム体制がより効果的に機能するためには、番組制作における各チームの独自性の確保及び実質的な要員増が必要であること等を説明のうえ、今後とも番組制作体制充実のためカウンターパートの増員に努めるよう要請した。

2-3 今後のプロジェクト実施計画

2-3-1 1989年度実施計画

チリ側から本年度プロジェクト主要活動計画の提出があり、これを確認した。(詳細別添ミニッツANNEX参照)

同計画は、事前に提示されたものに、新たに視聴覚教育のための8ミリ技術利用に係る調査・研究が追加されているが、いずれもR/D及びTSIに沿ったものであると認められた。

2-3-2 ローカルコスト負担の要望

チリ側からプロジェクトに関連する調査・研究の実施に必要なローカルコストの日本側負担について打診があり、その可能性次第ではJICAに公式に要請する用意がある旨説明があった。

チリ側は教育テレビによる視聴覚教育のモデル校を選び、その効果を調査・研究したいと

しているが、その費用についてチリ政府の助成を得ることは極めて困難であることから、日本側に本件を要請してきたものである。

2-3-3 1989年度機材供与の要望

チリ側から次の機材の供与について要望越した。

なお、本件機材の優先順位については正式要請提出の際に付す旨説明がなされた。

- 8 Cam VTR
- Wireless Intercommunication System
- Camera Crane
- Camera Dolly
- Battery Light Set
- 8 mm Professional Type Editing System and Camera
- Mavica Still Image Recorder
- Electric Telop Upgrade

2-3-4 プロジェクト実施上における進言

本調査団から今後のプロジェクト実施にかかわる次の諸点についてチリ側に進言した。

- ① 番組制作グループとこれに対応する制作技術スタッフを本プロジェクトの効率的な実施に資する方向で再編成すべきである。

(チリ側においては、番組制作にあたって、番組制作に対応する制作技術スタッフの組織化が行われていないため、プログラム・ディレクターがテクニカルディレクターを兼ねることとなり、演出と技術を同時に行っていることから、高度な番組づくりを困難にしている。このため改善策をとるよう進言したもの)

- ② 本プロジェクトにより得たチリ側カウンターパートの技術は、より広くテレビ制作グループの全員に共有されるべきであること。

(チリ側カウンターパートが得た技術、知識は当該カウンターパートのみにとどまっている傾向が見受けられることから、より一層効果的な技術移転の観点から改善方申し入れを行ったもの)

2-4 その他

2-4-1 TELEDUC 将来計画

チリ側から、1987年11月の長期調査チーム訪問時に説明したTELEDUCの将来計画に基本的には変更ない旨説明がなされた。

2-4-2 予算システムの改善

チリ側はプロジェクトの円滑な実施のため、予算配分システムの改善の必要性を認識している旨説明した。

現在、TELEDUCの予算は各支出項目ごとに、CANAL 13とチリ・カトリック大学に割り振られているが、これを毎年の予算総額の一定割合をCANAL 13とチリ・カトリック大学が分担する方向で改善するよう努力したいとしている。

3. プロジェクトの進捗状況

3-1 主要活動実績

プロジェクトが発足して約8カ月が経過し、派遣専門家と現地カウンターパートとの間の人間的つながりもスムーズに発展しつつあり、機材も続々到着しつつある折から、今後急速に活動が充実していくものと思われる。機材より先行した専門家諸氏は、その間TELEDUCの教育番組スタッフの資質向上を目的にチームリーダーが積極的にセミナーを企画、実施し、好評を得ている。技術専門家は自己の体験を基に、アイディアを出し、プロンプター装置を手づくりで完成するなどして、カウンターパートの尊敬を集めている。

修理技術の指導も順調に行われており、部品の調達が困難な地域であるので、ユニット程度の修理が可能になることを理想として、指導し、実績を着実にあげている。

特に、調査団がチリ滞在中に編集装置一式が到着、その据付け、調整を通じた技術移転業務の実態をつぶさに見ることができたが、カウンターパートの目の輝きは素晴らしいものであり、今後の技術移転業務の進展は大いに期待できる。

TELEDUCの技術レベルはかなり高水準にあるとの評判であるが、番組制作技術に関する限りではまだまだであり、今後の指導いかんで教育番組の拡充が可能となるものと思われる。

3-2 技術移転達成状況

供与機材の編集装置がようやく到着し、その据付け工事、調整が終わり、VTRや編集機を中心とする技術移転が始まるところである。

OB・VANの到着を待って、より本格的な番組制作技術の移転が行われることになるが、これまでの約8カ月間、機材到着に先立ち、なすべき大きなことがあった。それは、番組制作に対する考え方の相違についての調整である。TELEDUCは放送局ではなく、教育放送のための番組を制作する、いわゆる「教育放送メディアサービス」といったとらえ方もできないわけではなく、番組制作体制について放送局並みの概念を導入することには無理があるかもしれないが、少なくとも、教育放送番組制作の拡充を図るには、また、そのための技術移転を行うには、なるべく双方の番組制作体制について一致した考え方を持つことが望ましい。

抽象的になることを避けるために、一例を挙げると、テレビ番組を制作する場合、ディレクターは技術との打合せに大きな比重を置くやり方が日本では定着しており、そのことにより、技術的に品質の良い番組を継続的に制作することができる。ところが、ここでは、番組制作に関するあらゆる情報はディレクターの頭の中にあり、必要に応じて、その都度、ディレクターの指示により、カメラや音声ミキサーや照明係が動くというやり方をとっており、日本の番組制作技術者には信じられないようなやり方をとっている。

さらに驚くことはディレクターが番組制作中、カメラ切り替えスイッチにしがみついて操作しており、技術者は側でそれを眺めているという光景である。カメラ切り替えスイッチはテレビ番組制作においては、技術の最も責任の重いポジションでTD(テクニカルディレクター)がこれに当たるか、または専門に訓練されたスイッチャーが担当する。その理由はテレビ番組では、生放送でも録画でも、瞬時に機器異常や技術的異常現象を発見し、適切な技術的指示を与えることのできるポジションはスイッチャーだからである。

ところが、チリにおいては番組制作に際して技術は、機材の固有の動作状態を維持するための機材のお守り役といった位置づけのように見受けられる。カメラワークや音声、照明といった分野が受動的である。それだけディレクターの負担は大きい、あらゆる情報と番組の完成度に対する名誉をすべて独占することになる。

このように、チリと日本とはテレビ番組制作における技術の果たす役割について、考え方に相違があり、チリ側カウンターパートに対する具体的な技術移転に際して、特に番組制作技術に関しては、そのことを配慮する必要があり、調査団からもチリ側に対して助言が行われた。実際の専門家の活動においても、この相違からくる困難があったと思われ、各カウンターパートの感想などからこのことがうかがわれる。

各カウンターパートについて技術移転達成状況の把握は困難であったが、会話を通じて得られた技術移転達成状況は次のように要約できる。

- (1) 番組制作の仕組みの違いは専門家の話を聞いただけでは理解できなかったが、日本に行くと、実際にテレビ番組制作の現場を見て学ぶことにより理解できた。
- (2) メンテナンス部門では、複雑な故障修理は専門家に頼るケースがしばしばあるが、一度専門家のやり方を見て覚えると、次からは、似たようなケースの故障はカウンターパート自身で修理ができる。
- (3) コミュニケーションギャップは日ごとに改善されつつある。
- (4) カウンターパートは新しい技術、例えば、D-2VTRといったような機器についての知識もかなり詳しく知っており、その面でも専門家の努力の跡がうかがわれる。

以上のように供与機材の到着前という技術移転の困難な状況下にもかかわらず、各専門家の工夫と努力により、本格的な技術移転業務につながる準備段階の業務を順調に進めており、当初計画は妥当であり、十分にその成果をあげることが期待できる。

なお、プロジェクトの主要実績を線表にすると別紙のようになる。

項目 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

番組制作	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">着任</div>	<div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>	
制作技術	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">着任</div>	パソコン指導 C・Gレイアウト指導 <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; margin: 0 auto; margin-top: 10px;"></div>	
C・G			
調査・研究		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">週1回打合せ</div>	(1～2名) 毎週月曜日午後3時～ 番組提案等

3-3 専門家派遣

3-3-1 長期専門家派遣実績は以下のとおりである。

氏名	指導分野	派遣期間
祝 富 昌	チーフアドバイザー兼 番組編成・制作	1988. 8. 23 ～ 1990. 8. 22
白 木 順 一	業務調整	同 上
前 田 隆	制作技術	同 上

3-3-2 短期専門家派遣実績は以下のとおり。

氏名	指導分野	派遣期間
藤岡英雄	調査・研究	1989. 3. 16 ~ 1989. 4. 9
飯田茂	編集システム据付け	1989. 4. 13 ~ 1989. 4. 20

3-3-3 専門家活動状況

(1) 長期専門家

TELEDUCが、組織図に示されるように、チリ・カトリック大学の一部局という位置にあると同時に、13チャンネルという営利的運営の放送局の空き時間の電波を利用して教育放送を行う特殊な組織形態にあることから、プロジェクトのリーダーの活動は技術移転業務を円滑に行うための周辺業務として、ODEPLANの技術協力部長や教育省等当局との折衝、また、機材の到着に伴う諸々の手続きといったような、本来、プロジェクトの活動範囲よりも広範囲にわたって活動する一方、ややもすると、学びたがらないスタッフを相手に積極的にセミナーを開いて番組制作に関する知識・技能を移転する活動を続けている。

制作体制については、独特の持論をもって完全なるチームを編成するようTELEDUCに働きかけ、現時点では完全とまではいえないながらも、2チームを編成させることに成功している。編集装置の機材は据付け、調整が完了しつつあり、間もなく到着する中継車とともに、実際の番組制作活動に入ればスタッフの技能の向上は急速に進展するものと期待され、そのための助走の段階が現在までの活動といえる。

なお、リーダーのもう一つの持論として、番組制作の時、プログラムディレクターがスイッチャーを兼ねるのはよくないということがあったが、これは彼自身、現地の制作体制を観察した結果、そのまま(プログラムディレクターがスイッチャーを兼ねる)でよいという意見に傾いていると述懐した。

(2) 短期専門家

調査・研究

チリ各地のへき地の学校をカウンターパートとともに観察した結果、現場の学校には1台のテレビもないことが判明した。教師や父兄とのインタビューを通して、教育放送を熱望する声に接する。専門家とカウンターパートの調査結果の検討打合せから、モデル校の設定の構想が生まれ、その資金的な裏づけ及び研究のテーマへと話題は進んでいる。

本構想は、教育テレビによる視聴覚教育のモデル校を数校選定し、テレビとビデオを設置し、教師と協力して放送番組の授業への活用を図り、その教育効果を調査・研究するというもので、チリ側積算によれば年間300万円程度、5年間で総計1,500万円程度が見込まれている。

本調査・研究活動は、番組編成及び制作技術分野の協力活動と連携して、チリにおける

教育番組の質の向上を図るうえで極めて重要かつ意義深い研究課題であるところ、日本側としても、本件につき何らかの協力ができれば今後のプロジェクト実施上、インパクトが大きいものと判断される。

3-3-4 コンピュータ・グラフィックス(C・G)専門家派遣に係る要望

ゴメス氏によれば、近く日本から派遣されてくるC・Gの専門家への希望要件は次の三つに要約される。

- (1) - C・Gの据付け、調整の技術を有すること
 - (2) - 技術的な操作が優れていること
 - 2次元、3次元のアプリケーションができること
 - “バグ”で何をやるかを熟知していること
 - アップグレードの方針が立てられること
 - (3) - 芸術的グラフィックのデザインができること
 - 良いテレビ・グラフィックを創造することができること
- 以上のうち、(1)はメーカー、(2)(3)では(2)が優先。

3-4 研修員受入れ

(実績)

- 1) <番組制作>
R. DE LA FUENTE 1988. 11. 15 ~ 12. 11
- 2) <制作技術>
SERGIO FLORES 1988. 11. 15 ~ 12. 11
- 3) <調査・研究>
M. P. DOMINGES 1988. 11. 15 ~ 12. 11
- 4) <教育テレビ番組及びC・G>
ALFONSO GOMES (準高級) 1989. 1. 7 ~ 11. 21

制作技術の場合、日本で設定された研修コースのレベルが低かったため、予定を変更して中継現場の見学やメーカーの見学などになった。番組制作は日本のやり方を見て、自分たちの方法と違うやり方があることを知ることができた。調査・研究の場合、効果的な調査方法を学ぶことができた。教育テレビ番組及びC・Gの場合、NHKの組織やその活動がわかったが、あまりに大きい組織なのですぐに真似のできることは少ない。

概略以上のように各カウンターパートは知っている。問題点としては、研修コースを設定する場合に相手のレベルに合わせるということは、聞こえはよいが、レベル以上のことは学ぶことができない。相手がレベルが低いといっているコースが、はたして低いものだったかどうか、検討の余地がある。

(平成元年度計画)

- 1) <番組制作> 1名(制作プロセス及び演出手法の確立を目的とする)
1990. 1. 1～3. 31 (チリ側要望)
- 2) <制作技術> 1名(中継技術の充実を図る)
1990. 1. 1～3. 31 (チリ側要望)
- 3) <C・G> 1名(ソフト面の補強、基礎から応用まで全知識)
1989. 5. 中旬から最長8週間(計画)
- 4) <調査・研究> 1名(統計技術の充実を図る)
1989. 5. 中旬から最長6週間(計画)

3-5 機材活用及び維持管理状況

3-5-1 番組素材

活用状況、管理状況とも良好。

3-5-2 ビデオモニタ

活用状況、管理状況とも良好。

3-5-3 編集システム

据付け、調整とも良好、運用良好。

3-5-4 OB・VAN

到着待ち(車庫のスペースは確保されている)。

3-5-5 C・Gシステム

到着待ち(スペースは確保されている)。

3-5-6 ランドクルーザー

1台は(納税済み)運用中。良好。

他は国内法による納税を待って運用。

なお、機材の運用、保守、管理は13CHが行い、使用(利益)はTELEDUCの権利。

3-6 ローカルコスト負担状況

(63年度実績)

1) 現地業務費臨時支給

(プロジェクト立ち上がり支援経費) 960千円

2) 現地業務費臨時支給

(秘書兼タイピスト備上費) 224千円

計 1,184千円

(平成元年度計画)

- | | |
|------------------------------------|----------|
| 1) 現地業務費臨時支給 | 1,750 千円 |
| (秘書備上、通信費、域内旅費、会議費、雑役務費) | |
| 2) 技術普及広報費 | 516 千円 |
| (プロジェクト紹介パンフレットの印刷 500 部) | |
| 3) 現地語教科書作成費 | 859 千円 |
| (番組制作、制作技術分野教材、スライド、スチール写真及びTPシート) | |
| 4) 視聴覚教材作成 | 1,032 千円 |
| (OB・VANを主テーマとしたAV教材：各種装置説明、ロケ映像美学) | |
| 計 4,157 千円 | |

4. 今後のプロジェクト計画

4-1 主要活動計画

4-1-1 はじめに

主要活動計画は、大きくは、番組制作、制作技術、コンピュータ・グラフィックス、調査・研究の4分野に分けられる。当初の年次計画になかったものとして、新たに視聴覚教育のための8ミリビデオ・カメラの講習を含む利用と調査・研究及び照明技術の短期専門家による指導が加わっている。

4-1-2 放送計画（編成）

TELEDUCの放送は、2学期制をとっており、今年度は5月9日から第1学期を開始する。放送番組及び時刻表は下記のとおりである。

- Geography（地理）
- Philosophy for Children（子供のための哲学）
- Psychology of Communication（コミュニケーションの心理学）
- Follow me I（英語）
- Follow me II（英語）
- Statistics（統計学）
- Miscelaneous information（情報）

この計画は、日本人専門家が着任する以前に策定されており、専門家の指導によるものではない。したがって、今後の計画では、2学期に向けて、準備段階から積極的にかかわることによって、技術移転の成果が得られるものと期待できる。具体的には、番組制作の項で述べるパイロット番組の試作を通じて指導することとしている。一方、今学期の番組でも、カウンターパートの日本での研修成果が、演出面で発揮されることを期待している。

時 刻 表

時 間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
8:00~ 8:20~ 8:40~ 9:00~ 9:20~		英語 I 英語 II 番組 A 番組 B フィラー (~9:30)		英語 I 英語 II 番組 A 番組 B フィラー (~9:30)		英語 I 英語 II	英語 I 英語 II
9:40~ 10:10~ 10:30~ ~10:40		(計90分)		(計90分)		統計学 心理学 情報 (計100分)	統計学 心理学 情報 (計100分)

4-1-3 番組制作

(1) 制作スタッフ……教育番組の質的向上と量的拡大を目指すためには、要員の確保が重要である。今後、放送枠の拡大に伴い、制作スタッフの増員が不可欠となる。今年度は、R/Dに記されている方向でカウンターパートの増員が図られ、2チーム体制となった。カウンターパート名は、長期調査の時点と変わっているが、制作スタッフとして当初予定のメンバーも加わっているので、状況を見ながら、それぞれのスタッフにも技術移転を図るべきである。

これにより、スタジオ制作及びOB・VANによるロケーション等、演出手法も多様化が図られることが期待される。

(2) 台本フォーマット……調査時点では、台本はあるとされていたが、これはスタジオの出演者のせりふや動きを示したもので、いわゆるカメラ台本はないという状況が明らかになった。OJTにより台本の必要性を指導した結果、これを番組制作に取り入れる方向で進んでいる。今後は、カウンターパートの番組制作経験や実績を勘案しつつ、さらにより良いシステムを目指すために、教材による指導が望まれる。教材作成については、ローカルコスト負担事業及び日本からの教材サポートによりチリの制作体制に適合したものを開発する。

(3) 制作体制の変更……台本フォーマットと同様に、制作技術がシステム化されておらず、昨年の講習会で提案から番組送出までのプロセスをNHKを例にとりながらフローチャートで示し明確にした。これをチリ側でいかにシステム化するかが問題である。また、問題点となっている「ディレクターがスイッチャーを兼ねる弊害」は、パイロット番組の試作を通じて、これを変更させる契機となることが期待される。TELEDUCとテレビ13チャンネルの組織上の問題もあり、直ちに解決されるものではないが、こうした効果的な制作方法を示すことにより、チリ側カウンターパートの意識改革を図り、評価会やテキスト化を通して、技術移転を図る。

(4) 講習会……チリ側の組織の問題もあり、年1～2回程度の講演を中心にした番組制作についての講習会を行う。また、8ミリビデオ・カメラの講習に関しては、まだ具体的計画が出されていないが、技術移転する立場からは、OJTの場面を8ミリカメラで撮影し、カウンターパート対象の講習などに利用すべきである。併せて、調査・研究でも利用できるように、その分野のカウンターパートに操作を指導すべきである。

4-1-4 制作技術

(1) 編集……1/2インチVTR 2台を使用した、オーバーラップをはじめとする映像効果の習得を技術移転すると同時に音声及びテロップ(文字発生器)や、C・Gとの組み合わせによる編集システムのノウハウを技術移転する。より高度な操作技術の移転のために短期専門家によるOJTを通じて具体的な番組編集を指導する。

(2) OB・VAN……当初計画は、スタジオに付属した副調機能を目的としたものであったが、機材の特性に鑑み、中継機材として有効活用を図る。また、機動性を發揮して、屋外ロケの番組に活用していく。

カトリック大学附属施設の体育館がスタジオ機能を持っているので、ここを収録スタジオとして使うことも考えられる。したがって、スタジオ2系統を使うことができ、2人のディレクターがそれぞれ番組を制作していくことが可能である。

(3) 照明(パイロット番組の制作)……調査では照明、カメラワークの水準が高いとされていたが、制約された条件のもとでつくられる教育番組を制作する場合、演出と密接な関係を持つ照明技術は、一流レベルとまではいえない。照明機材の供与を待って、短期専門家の派遣により、照明技術の移転を図る。13CHの技術者の劣る面を、テレビ局の了解を得たうえで研修を行う。特にバッテリー照明技法、スタジオにおける照明効果(スポットライト、ゴーポ)など、演出と密接にかかわる分野の指導が期待される。

(4) 保守・メンテナンス……TELEDUC専用機材を13CHの技術者が保守・運用するのを継続して指導していく。

4-1-5 コンピュータ・グラフィックス

(1) 研修……チリ側は技術操作とデザイナーの養成を希望しており、新しいC・Gシステムについては初歩から学ぶものの、1986年以後、一定レベルのC・Gでの操作に精通しているため、研修を通じて、急速な進歩が期待される。

(2) 年度別技術移転計画(案)

据付け ・技術的操作

- ・操作システム
- ・2D、3Dのアプリケーションの使用
- ・「バグ」への対処
- ・改良

デザイン ・芸術デザイン画

- ・TVに適したグラフィックスの開発

表 4 - 1

年 度	内 容
1. 1989年（6月～	C・G機器の運用 電子テロップ 2次元ペイント 3次元ペイント
2. 1989年（9月～	3次元C・G アニメーション 理論基礎編 2次元変換 ウィンドウ変換 3次元物体形状定義 3次元変換と遠近感 表示面塗りつぶし 陰面・陰線消去
3. 1990年	3次元C・G アニメーション 高度応用編 色彩論 表示面処理 スムーズ・シェーディング 各種マッピング デジタル映像特殊効果との融合 アニメーション

4 - 1 - 6 調査・研究

- (1) 目標……教育番組の質的向上と量的拡大を図るため、その支援機能としての調査・研究のプログラムを策定する。新番組開発につながる形成的・評価的研究を行う。
- (2) 「実験校」（パイロット校）による調査……サンチャゴ周辺の小学校8校に、カラーテレビ8台を設置し、教育番組による児童の変容(学力や学習意欲)を長期的視野に立ち調査する。調査にはビデオ1台を使う。この際に、記録用として8ミリの活用が考えられる。
- (3) 形成的・評価的研究……パイロット番組試作に伴う研究を行う。試作に関しては研究者が協力する。また評価のために視聴テストを行い、効果・影響を総合的見地から検討する。
- (4) 教育番組の需要調査……現在まで番組に関する需要調査が行われておらず、データがない。具体内容の調査を行いデータを収集する。

4 - 2 専門家派遣

4 - 2 - 1 コンピュータ・グラフィックス設置（6 / 27～7 / 21）

2次元ペイント装置、3次元C・G装置、ソフトウェアの運用について、基本的な操作と概念を指導(前掲移転計画案の1に相当)。

4 - 2 - 2 OB・VAN設置（7 / 3～7 / 14）

フロアプランに従って、駐車位置を確保する。

4-2-3 コンピュータ・グラフィックス装置（9/1～10/30）

実際の番組に必要な映像を、素材からトレーニングに合わせて選択し、多くのケースを指導すると同時に、デザインの応用技術を技術移転する（前掲移転計画案の2に相当。ただし、カウンターパートの技量によっては、3に進むこともある）。指導案は、長期調査による。

4-2-4 照明技術（10/15～10/30）

制作技術に関する技術向上のために、短期派遣により、これを行う。このあと、音声、カメラワークなど場合に応じて行う。

4-2-5 その他

番組制作にかかわる演出（子供向け番組）指導、番組開発と編成に関する管理指導などが短期派遣として考えられる。

※ 期間は、表記の時期の一定期間を意味し、固定されたものではない。

4-3 研修員受入れ

4-3-1 調査・研究（5/15～5/26）

教務担当のフランシスコ・ガルセス氏が、NHK放送文化調査研究所のほか、NHK及び日本国内関係機関を訪問して指導・助言を受ける。

4-3-2 コンピュータ・グラフィックス（5/4～7/26）

供与される機材に慣れると同時に、C・Gソフト制作者、デザイナーなど訪問、実習、見学を通じて、技術の動向や、番組での応用など最新テクニックを学ぶ。

4-3-3 教育番組制作（1/1～2/28）

上級の集団研修及びNHK教育番組センターでの現場実習を通じて、番組制作の実際を学ぶ個別研修を受講し、教育番組の全般を理解する。

4-3-4 TV番組制作技術（1/1～3/31）

上級の集団研修及び個別研修を受講し、技術全般を理解する。また、NHK技術の各セッションで現場実習を行い、実際的な技術を身につける。また、供与機材メーカーで機器の保守の見本・実習を行い、最新の技術を学ぶ。

4-4 機材供与

4-4-1 チリ側から次の機材の供与について要望があった。

- β VTR
- Wireless Intercommunication System
- Camera Crane
- Camera Dolly

- Battery Light Set
- 8mm Professional Type Editing System and Camera
- Mavica Still Image Recorder
- Electric Telop Upgrade

4-4-2 追加要求についての留意点

- (1) 8ミリビデオ編集機とカメラ……カメラ操作については、講習会などで指導ができるが、正式な編集システムが入っているうえに、このような機種をさらに加えるのは現行のプロジェクト体制では、あくまで補助的な役割しか期待できない。番組制作というより、調査・研究に必要なものかと思われるが、編集と映像資料整理に時間と労力が多くかかることが懸念される。
- (2) マビカ・スチール・イメージレコーダー……C・G制作に使用するものと思われるが、具体的目標が明らかにされていない。
- (3) 電子テロップ……C・Gシステムに十分組み込まれているので、重複するのではないか。その使用法等が明確でない。

4-5 ローカルコスト負担

4-5-1 調査研究にかかわる日本側負担

パブリナ・ドミンゲス教授のODEPLANへの研究費助成申請と併せて、調査・研究に関して要望があった。これは長期調査報告(P.38)にあるように、VTRプレイヤー1台及びカラーテレビ8台を「実験校」(子供と教師を対象)に設置し、番組調査を具体化するものであり、長期にわたることから、ローカルコスト負担を要請するものである。

4-5-2 専門家携行機材にかかわる負担

調査・研究資料として、日本語の研究論文の翻訳を速やかに行う必要がある。

カウンターパートに対し、技術移転をスムーズに行うため、スペイン語によるテキスト、ビデオ教材の充実が必要になる。日本側からの資料素材の購入と併せて、現地での翻訳・改編及び、作成にかかわるローカルコストの増額が見込まれる。

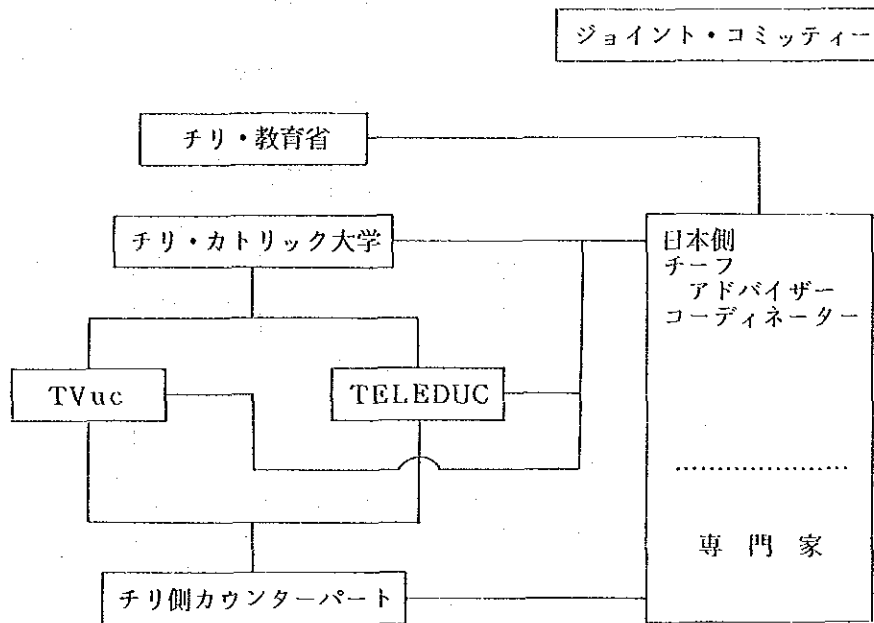
5. プロジェクト実施体制

5-1 組織

5-1-1 管理運営組織

討議議事録(R/D)により定められた本プロジェクトの組織及び運営体制は図5-1及び以下に示すとおりであり、現時点で変更はない。

図5-1 プロジェクト組織図



プロジェクトの実施にあっては下記の運営体制をとることとする。

- (1) 本プロジェクトの責任者は、チリ・カトリック大学の学長（チリ・カトリック大学テレビ(TVuc)社長も兼務）とし、教育省が本プロジェクトをサポートする。
- (2) 本プロジェクトの管理、運営上の責任者は、TELEDUCの局長とし、TVucが協力する。
- (3) 日本側のチーフアドバイザー及びコーディネーターは、プロジェクトの実施に関する技術・管理面から関係者である教育省担当者、チリ・カトリック大学学長、TELEDUC局長、TVuc局長、TVucやTELEDUCの他の関係者に対して必要な勧告や助言を与えることができる。
- (4) プロジェクトを円滑かつ効果的に推進するためにジョイント・コミッティーを設け、年1回以上開催する。そのメンバーは、委員長がチリ・カトリック大学学長のほか、チリ側の委員は、教育省責任者(担当者)、TELEDUC局長、TVuc局長、その他プロジェクト関係者。日本側の委員は、チーフアドバイザー、コーディネーター、他の専門家、必要に応じてJICAから派遣される関係者、チリ・JICA事務所の責任者で構成する。

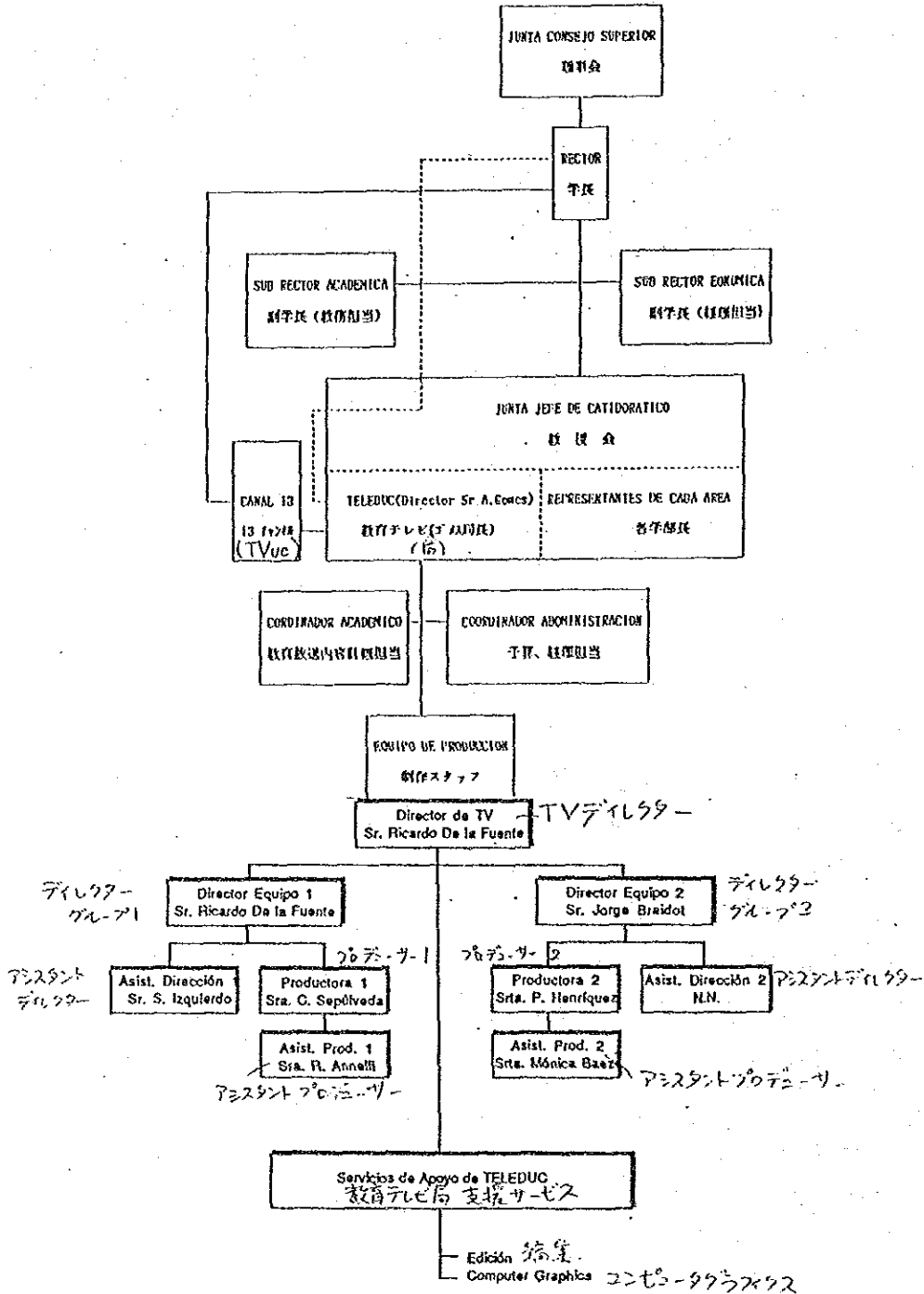
このほか、オブザーバーとして、日本大使館の担当者及び国家計画庁(ODEPLAN)の責任者は、本委員会に出席することができる。

5-1-2 カトリック大学及び教育テレビ局組織

チリ側では、今次調査団の訪問直前にディレクターを現行の1名から2名に増員し、制作チームを2チーム体制とする等、組織、要員の充実を図っている。

現時点におけるカトリック大学及び教育テレビ局(TELEDUC)の組織は図5-2のとおりである。

図5-2 カトリック大学及び教育テレビ局・組織図(略図)



5-2 予算

1988年度 TELEDUC 予算執行額及び1989年度予算確得額(財源、収支費目別)は表5-1のとおりである。

なお、現在 TELEDUC の予算は各支出項目ごとに、CANAL13 (TVuc) とカトリック大学に割り振られているが、チリ側は、プロジェクトの円滑な実施のため、毎年の予算総額の一定割合を CANAL13 とカトリック大学が分担する方向で予算配布システムを改善するよう努力したいとしている。

表5-1 TELEDUC 予算

PRESUPUESTOS 予算				
	1988	1989	1989	
		SIN JICA	CON JICA	
EGRESOS 支出		除 JICA 補助額	含 JICA 補助額	
Adquisiciones	\$4.321	\$6.457	\$508.645	機材費
Consumo	\$1.316	\$1.740	\$1.740	消耗品(燃料等)
Gastos Generales	\$5.338	\$4.331	\$4.331	電話、郵便、事務運営費
Viajes y misión	\$0	\$0	\$67.618	研修員、専門家(JICA 負)
Honorarios	\$2.932	\$4.200	\$4.200	人件費(契約、アルバイト)
Impresión	\$20.201	\$26.750	\$26.750	印刷費
Mantenión y Seg.	\$1.378	\$1.822	\$6.122	保守、保険(車)
Producción TV	\$4.503	\$5.954	\$5.954	制作費
Proveedores Editorial	\$2.496	\$3.300	\$3.300	著作料
Sala Computación	\$5.313	\$7.025	\$7.025	JICA ユニタ室運営費
Proveedores Librería	\$10.482	\$13.860	\$13.860	著作料
Remuneraciones	\$17.832	\$23.578	\$23.578	局長経費
Otros gastos	\$0	\$4.300	\$0	地方拠点運営費
Sedes	\$4.141	\$7.095	\$7.095	教授謝礼
Servicios Académicos	\$2.912	\$3.850	\$3.850	
支出計 TOTAL EGRESOS	\$83.164	\$114.262	\$684.068	
INGRESOS 収入				
Convenios-Becas	\$3.472	\$18.748	\$588.554	JICA 及び教育省交付金
Sala Computación	\$6.715	\$8.700	\$8.700	JICA ユニタ講習会受講料
Librería	\$16.288	\$17.864	\$17.864	本売上
Matrículas	\$29.766	\$37.680	\$37.680	受講料
Otros	\$6.896	\$4.400	\$4.400	その他
Ventas "al por mayor"	\$7.519	\$7.150	\$7.150	多売本売上
Presto. Operación	\$5.089	\$6.216	\$6.216	大学出資金(学生)
Presto. Remuneraciones	\$11.576	\$12.372	\$12.372	大学出資金(先生)
収入計 TOTAL INGRESOS	\$87.322	\$113.130	\$682.936	
差額 SALDO	+\$4.158	-\$ (1.132)	-\$ (1.132)	

NOTA: TODOS LOS VALORES ESTAN EXPRESADOS EN MILES DE PESOS. (単位=千ペソ)

5-3 カウンターパート及び要員

現時点における各分野カウンターパートの配置状況は、表5-2のとおり局長(兼C・G)1名、番組制作2名、制作技術2名、C・G2名、調査・研究2名の計9名である(R/D上は16名)。

上述のとおり、チリ側ではディレクターを現行の1名から2名に増員し、制作チームを2チーム体制とする等組織、要員の充実を図ってきているが、今後とも番組の質の向上を図っていくためには、実質的な要員増が必要であるとの認識に立ち、引き続きカウンターパートの増員に努めるよう、本調査団から要請しておいた。

表5-2 カウンターパート配置状況

分野 / 氏名	研修受入れ期間	配置年月日	
局長 兼C・G	ALFONSO GOMEZ M.	89. 1. 5～89. 1. 21	88. 8. 24
番組制作	RICARDO DE LA FUENTE	88. 11. 7～88. 12. 18	88. 8. 24
番組制作	JORGE BRAIDOT		89. 3. 1
制作技術	SERGIO FLORES	88. 11. 7～88. 12. 18	88. 8. 24
制作技術	LUIS SILVA		88. 8. 24
C・G	CLAUDIO GOMEZ C.		88. 8. 24
C・G	LUIS ANDRES M.		88. 8. 24
調査・研究	MARIA PABULINA DOMINGES	88. 11. 7～88. 12. 18	88. 8. 24
調査・研究	FRANCISCO GARCES	89. 5. 9～89. 5. 30	88. 8. 24

5-4 施設・建物

チリ側は、プロジェクトの円滑かつ効果的な実施に必要な施設・建物の整備に努めている。各種施設・建物の整備状況は以下のとおりである。

5-4-1 大学側事務室

当初日本人専門家に割り当てられた大学のオフィスは3階の小部屋で、大通りに面し、採光、騒音、居住性に欠ける等の問題があったが、GOMEZ局長との数回にわたる交渉の結果、副学長の決裁により防音装置付きの従来の3倍のスペースの部屋を確保している。

5-4-2 TELEDUC側事務室

現在、リーダー用オフィスと専門家オフィスの2室が確保されており、執務上、特段の問題はない。

5-4-3 C・G室

R/D時の部屋寸法が実際には15%減となり、我が方供与のC・G設置に問題を生じたが、局長室を使用することで解決をみた。

5-4-4 編集室

今次調査団滞在中に、短期日本人専門家により、供与機材の編集装置の据付け工事、調整が完了した。編集室は若干手狭であるが、作業環境上、特段支障はないものと思われる。

5-5-5 OB・Van

今後供与される予定となっているOB・Vanの駐車場については、必要なスペースは既に確保済みであり、近く所要の工事が開始される模様である。

5-5-6 その他

当初チリ側は、TELEDUC専用スタジオには照明器具だけ設置し、供与機材の中継車を使用してスタジオの運用を行いたいとしていたが、その後のTELEDUCの好景気により、現在、照明器具のみならず、カメラ・音声を含むすべての機材が設置される方向で建設工事が進められている。

6. TELEDUC の将来計画

6-1 番組の拡充と編成

6-1-1 はじめに

現在、チリは政治的に難しい状況にあるが、2年後には放送法の改正を目指している。それにより、現在、四つの大きな放送局があるが、2、3年のうちに10に増えることも予想される。新しい時代に対応する拡充は必要だが、政治状況が不透明な状態にあるため、大幅な拡大は考えにくい。

6-1-2 放送時間の拡充

1987年は、土曜、日曜9時半～11時放送で180分だったものが、1988年は、火曜、木曜、土曜、日曜と広がり、360分になった。

1989年は、さらに20分増え380分となった。

今後の目標は、午前8時から11時までの時間帯を教育テレビとして位置づけ、780分の枠に拡大したい意向である。

6-1-3 編成上の将来計画

(1) 火曜と木曜の9時半以降11時までの枠に番組を編成する。

(2) 月曜、水曜、金曜の枠に番組を編成する。

併せて、土曜、日曜の8時から9時の枠の番組を編成する。

6-1-4 外国から番組の購入

(1) BBC制作英語番組“Follow me”……1988年8月～11月に放送。今年度も継続。

(2) 今後の予定……番組の需要調査に基づき、必要な場合は購入。

本来は、独自制作が望ましいが、外国の番組でふさわしいものがあれば、購入することもある。購入番組を100%そのまま出すというのではなく、良い部分を取り上げて、番組インサートすることも考えられる。NHKからの教材は、放送枠の拡大に伴い、インターミッション用にセグメントを放送することも考えている。

6-1-5 質の向上

放送されている番組に対しての反応や要望について調査し、質の向上を目指す。ドミンゲス教授は以下の3点を強調している。

① どのように番組を通じて科目が学ばれているか？

② どのようなインパクトを与えているか？

③ どのような必要性があるのか？

6-2 登録学生数、テキストの拡充

長期調査によるとTELEDUCの教育番組は「クルソ」と「シクロ」に分かれているとされているが、現行の放送枠に示されているのは、すべてテキストを伴い、資格(単位)を取得させる「クルソ」になっている。「シクロ」は、インターミッションなどで放送されるなど番組のことを指すものと思われる。

6-2-1 登録学生数

学生、一般、教師など受講生すべてのことをいう。開設当初3,000人～5,000人だったが、今年度は10,000人を予定している。このうち4,327人は教師で、受講については、教育省から交付金の形で援助が行われている。

また、これらの教師1人のもとに30人の学生が学んでいることを考えると、番組を視聴している人数は13万人に達することになる。

学生数の拡大の方向として、各州にある12の教員訓練センター(教員の再訓練と資格の向上を目的)とのタイアップや、学校、地区のコミュニティとの連携により、コースを受ける人数の拡大を図る。

6-2-2 テキストの拡充

テキストは、10歳～12歳を対象とした番組では、教師用と生徒用がある。

受講費は、3,500ペソ～7,500ペソ、テキストは350ペソとなっている。上記の登録学生のほか、一般視聴者への販売により拡大を目指している。放送終了後も、テキストの販売は継続されている。

6-3 予算計画

6-3-1 現行体制

TELEDUCの予算は、独自収入のほか、大きくはカトリック大学からの援助、13CHからの援助によるところが大きい。予算案の作成は前年10月に始め、カトリック大学は10月中に決定するが、13CHは翌年1～2月に決定することから、3月時点での変更を余儀なくされている。したがって、13CHに対し、10月に決定するよう要望していく。

また各支出項目ごとに、13CHとチリ・カトリック大学に割り振られているが、費目と割合がわかりにくく、これを毎年の予算総額を一定割合で13CHとチリ・カトリック大学が分担し、費目はTELEDUCに任す方向で改善するよう希望している。

6-3-2 今後の見通し

援助金の増額は希望しているが、TELEDUCは独立した組織として、外部に対しても資金調達を働きかけなければならない。地方の市役所や地区のコミュニティへの働きかけ(具体的方法は不明)や、テキスト販売の拡大を図ることで、予算を確保したいとしている。

その背景として、チリの政治的状況の変化が、社会的、経済的影響を及ぼすことから、長

期ビジョンを立てられない状況をつくり出している。したがって予算は3カ年、5カ年計画は立てられないが、教育省に対しては、教師対象の援助金を今後も継続して要請していく。現在、チリの将来像について、教育の充実を各政党とも掲げているので、政府による援助は今後も継続確保したいとしている。

6-4 要員計画

今年度ようやく、制作チームは2チームになった。長期調査では、チーム構成がディレクター1名、プロデューサー1名、アシスタント1名の3名体制としていたが、今回の計画では、さらにアシスタント・プロデューサーを加えた4名体制となっている。専門家が直接指導するカウンターパートはディレクターとなっているが、それぞれのチームをまるごと指導する方向で、技術移転の対象の実質的な拡大を図ることが望まれる。

今後は4チーム体制にしたいとしているが、財政問題と関係しているので、予算確保を前提として拡大したいとしている。

また、技術陣も、13CHから独立した自前のものにしたいと希望しているが、現行は不可能である。

さらにカウンターパートは、供与機材の運用に伴い、要員要求していくことが可能になったとしている。

6-5 新番組開発計画

6-5-1 新番組計画

今回示されたのは以下の六つの番組である。これは「クルソ」「シクロ」の分類をしていない素案といってよい。

- (1) 遠距離科学研究所……遠隔地教育を目的とした科学番組
- (2) スペイン語の表現法……会話や人間関係・コミュニケーション能力を向上させる番組
- (3) 貧しい人を対象に生活向上に資する番組
- (4) 一般会計コース
- (5) 老人対象の番組
- (6) 個人企業の発展に役立つ番組……家内工業、商店経営など

6-5-2 調査・研究

番組の内容など具体計画を立てるには科学的なデータを基に開発しなければならない。その方法として、以下のことを考えている。

- (1) 実験校またはパイロット校の反応を確かめる
- (2) アンケートによる調査
- (3) 市場調査と教材開発の基準づくり（カトリック大学の研究体制の確立）

(4) 市役所、教師訓練センター、大学教授陣、TELEDUCの学生の要望の検討

6-5-3 教育チャンネルとしての問題点

教育テレビとしての独立に関心はあるが、コマーシャリズムとの結びつきが難しい。放送枠の拡大による教育波の独立は、1日最低4時間放送することが必要とされ、現実的でない。3カ年計画内では難しい。

6-5-4 視聴覚教育と教師の再教育

教材として、供与された教育番組を使い、視聴覚教育の開発・発展のためにビデオによるコースを開発したいとの要望がある。これは、TELEDUCの将来計画にかかわることとして、番組開発につながるものと期待される。同時に、教師の再教育など、チリ側の独自計画を推進するうえで課題となるものである。

7. ミ ニ ッ ツ

7-1 ミニッツ署名に至る経緯と概要

本調査団派遣に先立ち、本調査団の協議結果としてミニッツに盛り込むべき内容等について、あらかじめ国内で各省会議及び調査団員による国内打合せ会議等を通じ検討し、次表のとおり調査団対処方針にとりまとめた。

同方針に基づき、先方 TELEDUC関係者とカトリック大学において、4月4日から数日間にわたる協議を行ったところ、双方、ほぼ上記我が方の対処方針どおり合意に達したので、4月11日、同大学において先方、GOMEZ局長及び我が方、本田調査団団長との間で、ミニッツに署名を了した（ミニッツの内容については第2章調査・協議結果要約及び7-2節を参照）。

テレビ教育テレビ・プロジェクト計画打合せ調査団対処方針 (T/R) (案)

調査確認事項及び問題点等		現地における対応措置												計画打合せ調査団の対処方針 (案)
1. プロジェクト活動計画														<p>(事業全体)</p> <p>(1) 現在までの実績 (含技術移転) を踏まえつつ、今後の我が方が投入計画 (専門家派遣、研修員受入れ、機材供与等) 及び先方実施体制及び将来計画等を勘案のうえ、協力期間内における当初計画の妥当性及び実施上の問題点等について検討を行い、必要に応じ指導、助言を行うとともに、プロジェクト側が作成した向こう1年間の年次計画案 (別紙) につき見直しを行う。</p> <p>(年次計画ミニッツ締結)</p> <p>(2) チリ側カウンターパートに対する具体的な技術移転の手法及び可能であればその評価方法等につき、確認、協議を行い、必要な指導、助言を行う。</p> <p>(3) 上記(2)を踏まえ、可能な範囲で、各カウンターパートごとの技術移転の達成状況を把握するとともに、今後の指導方針等につき、必要な指導、助言を行う。</p> <p>(番組制作)</p> <p>(1) チリ側責任者 (制作重役 Ms ルビー等) に対し増員等所要の申し入れを行う。</p>
(1) 主要活動実績														
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
番組制作	着任 台本フォーマットの説明 セミナー (18名)(計4回) 放送体系について セミナー (18名)													
制作技術	着任 パソコン指導 C・Gレイアウト指導 メンテナンス部門でOJT													
C・G														
調査・研究	週1回打合せ (1~2名) 毎週月曜日午後3時~ 番組提案等													
(実施上の問題点)														
<番組制作>														
1) 編成・制作業務を含め、ディレクターが少なすぎる。スタッフの増員なくして、番組本数の増加、質の向上は現状以上望むべくもない。														
当局には人員の増員を要請済み。														

別紙

平成元年度年次計画（案）
（プロジェクト活動計画）

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
番組制作 パイロット番組 の制作	パイロット番組・取材											
	パイロット番組・研究 OB・Van講習											
制作技術	パイロット番組・制作①											
C・G	編集機講習											
	機器設置 C・Gソフト講習											
調査・研究	調査・研究講習											

（注）コース名、対象人数、訓練期間、年間実施予定回数を明記

<活動計画についての要望事項等>

特になし

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対応方針(案)
<p>30分ものを週に2本、10分ものを1本の制作スパンにディレクターが1人。粗製乱造は免れず、「創っている」のではなく、「作っている」だけで、質の低下は否めない。</p> <p>2) 台本フォーマットの確定について：番組制作上の要となる台本フォーマットが定められていない。このため、スタジオ作業のカメラ・ポジション、音声位置、出演者の動きのコンセンサスがとれず、リハーサルの度に動きが各々マチマチで一定しない。</p>	<p>11月にセミナーを開き、イラスト入りの小冊子を用意して、台本フォーマットの形式化について解説。(従来の1/3の労力で収録できると説明)</p>	<p>(2) 平成元年度において、我が方ローカルコスト負担事業により、番組制作及び制作技術分野の教材作成に協力する方針。</p>
<p>3) ディレクターがスウィッチャーを兼ねる弊害：ニュース番組やトーク番組と違って、演出を必要とするディレクターが技術分野のスイッチャーを兼ねるシステムは、収録中にカメラ・サイズ等を兼ねるシステムのレバー操作等に気を取られて、その時々の演出の調整やカメラ・サイズ等の指示が疎かになる。さらにカメラ割りのなされない台本なので、カメラマン、音声等が次のポジションに予測で動くという前代未聞の混乱ぶり。「ディレクター1人の頭の中にすべてがある」のは想像できないシステムである。</p>	<p>11月にセミナーを開き、イラスト入りの小冊子で技術打合せ、カメラ・リハーサル、収録までのプロセスを説明。</p> <p>なお、来年度に「台本作成・演出セミナー」を一般公開で開催し、放送作家の育成計画を実施の方向でカリキュラムを作成中である。</p>	<p>(3) 上記ローカルコスト負担事業により、OB・Vanの各種装置の操作方法及び野外における映像美学、手法に係るAV教材の作成に協力する方針。</p>
<p>4) ワイヤレス・インターカムが未使用のため、ディレクターとの演出指示等が円滑にできない。また、現状のインターカム(有線)の保</p>	<p>現地側に設置の要請をしたが、予算上及び、現地で入手困難との返事を得た。</p>	<p>(4) 平成元年度の供与機材要請(後述)における、先方優先順位を確認し、我が方当初予算(輸送費込15,000千円)の範囲内であれば、本件ワイヤレ</p>

調査確認事項及び問題点	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対応方針(案)
<p>有数も少なく、カウンターパートとして、スタジオ内での対話・指導が困難である。</p> <p><制作技術></p> <p>1) スイッチャーとディレクターの兼業の弊害: カメラ・ワークの全体のチェックが不可能。</p> <p>2) アイリス、トーン合せ等のVE技術の向上が必要。</p> <p>3) 照明器具のテレビ・スタジオ化: 現在、映画用を流用しており、光量の点で細かいテクニックが使えない。</p> <p>4) スタジオのカメラ・ドリリーが屋外中継用でベデスタル・タイプでないため、ドリリー効果の演出と美的動作が望めない。</p> <p><C・G></p> <p>1) R/D締結後、TELEDUCの好景気で、既に各種のC・Gを購入。供与のC・Gとの重複と競合が懸念される。</p> <p>2) 供与のC・Gと既設のC・Gの収納場所は、現在予定されている部屋では手狭で、作業環境は好ましくない。</p> <p><調査・研究></p> <p>特になし</p>	<p>番組制作作業に準じて、随時、技術移転を行う。(OB・Van到着後対応)</p> <p>製造元へ機器本体の寸法を、できる限り小さくするよう要請。 「レイアウト委員会」を開き、作業手順に則った設置案の検討をしている。 (供与C・Gの搬入は5月予定)</p>	<p>スインターカム一式を供与する方針。</p> <p>平成元年度供与機材として、スタジオ用カメラ・ベデスタル・ドリリー一式を供与する方針。 (ただし、我が方コミット可能な予算額の範囲内で先方より高い優先順位が付されることが前提)</p> <p>チリ側によりスペース拡張が行われ、本件解決済み。</p>

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針																																				
<p>2. 日本側投入</p> <p>(1) 専門家派遣</p> <p>1) 長期専門家派遣実績と計画</p> <table border="1" data-bbox="400 786 1070 1906"> <thead> <tr> <th>経過年次</th> <th>1 年 目</th> <th>2 年 目</th> <th>3 年 目</th> </tr> <tr> <th>年 月</th> <th>1988年</th> <th>1989年</th> <th>1990年</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1988年</th> <th>1989年</th> <th>1990年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チーフアドバイザー 視 宮島 (番組編成・制作) < 88.8.23 ~ 90.8.22 ></td> <td>7/18/23</td> <td>8/22</td> <td>6/30</td> </tr> <tr> <td>チーフアドバイザー < ></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>白木順一 (業務調査) < 88.8.23 ~ 90.8.22 ></td> <td>7/18/23</td> <td>8/22</td> <td>6/30</td> </tr> <tr> <td>< ></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前田 隆 (制作技術) < 88.8.23 ~ 90.8.22 ></td> <td>7/18/23</td> <td>8/22</td> <td>6/30</td> </tr> <tr> <td>< ></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 短期専門家 (63年度実績)</p> <p>① 藤岡英雄 (調査・研究) < 89.3.16 ~ 89.4.9 ></p> <p>② 飯田 茂 (編集システム掘付け) < 89.4.3 ~ 89.4.20 > (予定)</p>	経過年次	1 年 目	2 年 目	3 年 目	年 月	1988年	1989年	1990年		1988年	1989年	1990年	チーフアドバイザー 視 宮島 (番組編成・制作) < 88.8.23 ~ 90.8.22 >	7/18/23	8/22	6/30	チーフアドバイザー < >				白木順一 (業務調査) < 88.8.23 ~ 90.8.22 >	7/18/23	8/22	6/30	< >				前田 隆 (制作技術) < 88.8.23 ~ 90.8.22 >	7/18/23	8/22	6/30	< >					<p>(1) 前記1.に基づき、各派遣専門家の業務の進捗を把握するとともに、必要に応じ指導、助言を行う。</p> <p>(2) 明年度短期専門家派遣計画については、我が方必要予算の確保を前提とした暫定計画であり、今後変更があり得ることを断ったうえで、チリ側に対し説明する。また、今後の我が方検討に資するため、右計画に対するチリ側要望の詳細を聴取して行くこととする。</p>
経過年次	1 年 目	2 年 目	3 年 目																																			
年 月	1988年	1989年	1990年																																			
	1988年	1989年	1990年																																			
チーフアドバイザー 視 宮島 (番組編成・制作) < 88.8.23 ~ 90.8.22 >	7/18/23	8/22	6/30																																			
チーフアドバイザー < >																																						
白木順一 (業務調査) < 88.8.23 ~ 90.8.22 >	7/18/23	8/22	6/30																																			
< >																																						
前田 隆 (制作技術) < 88.8.23 ~ 90.8.22 >	7/18/23	8/22	6/30																																			
< >																																						

調査確認事項及び問題点等 (平成元年度計画)	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針(案)
<p>① 機材据付け (C・G 2名、中継車1名) 89. 6 ~ 89. 7</p> <p>② 制作技術 89. 9 ~ 89.10</p> <p>③ コンピュータ・グラフィックス 89. 9 ~ 89.10</p> <p>④ 調査・研究 89. 9 ~ 89.10</p> <p>⑤ 照明 89.11 ~ 89.12</p> <p>⑥ 番組制作 89.11 ~ 89.12</p> <p>(2) 研修員受入れ (実績)</p> <p>1) <番組制作> 88.11.15 ~ 88.12.11 R. DE LA FUENTE</p> <p>2) <制作技術> 88.11.15 ~ 88.12.11 SERGIO FLORES</p> <p>3) <調査・研究> 88.11.15 ~ 88.12.11 M. P. DOMINGES</p> <p>4) <教育テレビ番組及びC・G> 89. 1. 7 ~ 89. 1.21 ALFONSO GOMES (準高級)</p>		<p>(1) 帰国研修員とのヒアリング等により、現在までの研修成果、問題点及び日本研修に対する要望等を把握する。</p> <p>(2) 明年度の研修計画につき、先方要望内容等の詳細を聴取する。</p>

調査確認事項及び問題点等		現地における対応措置												計画打合せ調査団の対応方針(案)
(平成元年度計画)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<番組制作>							△		○	○	1/1	1/1	3/31	(チリ側要望)
<制作技術>							△				1/1	1/1	3/31	(チリ側要望)
LUIS SILVA														
<C・G>							5月中旬から最長8週間(日本側計画)							
<調査・研究>							5月中旬から最長6週間(日本側計画)							
<p>(注) △: A.2~A.3フォーム取付、○: 受入れ決定 ー: 受入れ期間</p> <p><研修員受入れ計画についての要望事項等(研修分野、人数、氏名等)></p> <p>番組制作 1名(制作プロセス及び演出手法の確立を目的とする)</p> <p>制作技術 1名(中堅技術の充実を図る)</p> <p>C・G 1名(ソフト面の補強を図るため、デザイナーの養成を目的とする)</p> <p>調査・研究 1名(統計技術の充実を図る)</p>														

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針(案)																																																																																										
(3) 機材供与 (63年度供与機材実績)	現地に於ける対応措置	計画打合せ調査団の対処方針(案)																																																																																										
機材供与 (63年度供与機材実績) <table border="1" data-bbox="343 750 821 1377"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><番組制作> 番組素材一式</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△●</td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ビデオ・モニター</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△●</td> <td></td> <td></td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><制作技術> 編集システム</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△●</td> <td></td> <td></td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td></td> <td>○●</td> </tr> <tr> <td>OB・Van</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△●</td> <td></td> <td></td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><C・G> C・Gシステム</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△●</td> <td></td> <td></td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><調査・研究> ランドクルーザー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>△●</td> <td></td> <td></td> <td>○●</td> <td>○●</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	<番組制作> 番組素材一式						△●	○●	○●	○●	○●			ビデオ・モニター						△●			○●	○●			<制作技術> 編集システム						△●			○●	○●		○●	OB・Van						△●			○●	○●			<C・G> C・Gシステム						△●			○●	○●			<調査・研究> ランドクルーザー						△●			○●	○●			(1) 63年度購送済み供与機材(携行機材を含む)の引取り状況並びに維持・管理及び活用状況を確認するとともに、問題があればその対策を検討する。 (2) 供与機材に対する課税は、明白な国際約束違反であると考えられるところ、右事情を聴取するとともに、現地日本大使館等を通じ、本件早期解決方ナリ側関係当局に申し入れを行う。 (3) 左記計画に係る必要性及びプライオリティーを確認する。 A4フォーラム(正式要請書)については、一括して早期提出するよう指示する。 なお、日本人専門家に対しては、プライオリティーを付して詳細仕様書を作成するよう指示する。
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																
<番組制作> 番組素材一式						△●	○●	○●	○●	○●																																																																																		
ビデオ・モニター						△●			○●	○●																																																																																		
<制作技術> 編集システム						△●			○●	○●		○●																																																																																
OB・Van						△●			○●	○●																																																																																		
<C・G> C・Gシステム						△●			○●	○●																																																																																		
<調査・研究> ランドクルーザー						△●			○●	○●																																																																																		
(注) △: A4フォーラム外務省接到、 ×: プロジェクトサイト到着 (●: 購送請求)、 ○: 本邦送附後、 ◎: 相手国港到着、	平成元年度機材供与計画に係るナリ側要望以下のとおな	携行機材(携行機材を含む)に係る免税措置条項が盛り込まれているが、現実には、先方税関当局が無税通関を承認せず、現在までのところ、多額の税金支払いを要求されている。 2) 長期調査及びR/D時には、TELEDUC専用スタジオに供与の中継録画車(OB・Van)をドッキングさせ番組制作を行う計画であったが、11月になり、当該スタジオに副調整機																																																																																										
(問題点) 1) 日本・チリ両国の技術協力協定には、供与機材(携行機材を含む)に係る免税措置条項が盛り込まれているが、現実には、先方税関当局が無税通関を承認せず、現在までのところ、多額の税金支払いを要求されている。 2) 長期調査及びR/D時には、TELEDUC専用スタジオに供与の中継録画車(OB・Van)をドッキングさせ番組制作を行う計画であったが、11月になり、当該スタジオに副調整機	<table border="1" data-bbox="901 750 1380 1377"> <thead> <tr> <th>プロジェクト名</th> <th>分野</th> <th>品目</th> <th>数量</th> <th>金額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">主要機材の概要</td> <td>制作技術</td> <td>1. タカム・VTR</td> <td>1式</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2. ワイヤレス・イン</td> <td>1式</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3. スタジオ用カメラ</td> <td>1式</td> <td>12,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4. スタジオ用カメラ・リコー</td> <td>1式</td> <td>9,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5. パッケージ・ライター</td> <td>2式</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>輸送費</td> <td></td> <td>2,600</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>28,100</td> </tr> </tbody> </table>	プロジェクト名	分野	品目	数量	金額(千円)	主要機材の概要	制作技術	1. タカム・VTR	1式	500		2. ワイヤレス・イン	1式	2,000		3. スタジオ用カメラ	1式	12,000		4. スタジオ用カメラ・リコー	1式	9,000		5. パッケージ・ライター	2式	2,000			輸送費		2,600			合計		28,100	コメント スペア・パーツに先駆けて、次年度・技術移転に必要な供与機材が中心となる。																																																						
プロジェクト名	分野	品目	数量	金額(千円)																																																																																								
主要機材の概要	制作技術	1. タカム・VTR	1式	500																																																																																								
		2. ワイヤレス・イン	1式	2,000																																																																																								
		3. スタジオ用カメラ	1式	12,000																																																																																								
		4. スタジオ用カメラ・リコー	1式	9,000																																																																																								
		5. パッケージ・ライター	2式	2,000																																																																																								
		輸送費		2,600																																																																																								
		合計		28,100																																																																																								

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針(案)
<p>能が設置されることが判明。供与のOB・Vanの取扱いに苦慮することとなった。</p> <p>局長GOMEZ氏にスタジオ機能改善のいきさつを問い合わせたが、明確な回答は得られず。</p> <p>TVucの急成長で資金的に余裕ができたため、の事業拡大と思われる。したがって、OB・Vanの今後の使用分野は長期屋外ロケ、キャラバン等になる見込み。</p> <p>(4) ローカルコスト負担事業 (63年度実績)</p> <p>1) 現地業務費臨時支給 (プロジェクト立ち上がり支援経費) 960千円</p> <p>2) 現地業務費臨時支給 (秘書兼タイピスト備上費) 224千円 計 1,184千円</p> <p>(平成元年度計画)</p> <p>1) 現地業務費臨時支給 1,750千円 (秘書備上、通信費、域内旅費、会議費、雑役務費)</p> <p>2) 技術普及広報費 516千円 (プロジェクト紹介パンフレットの印刷500部)</p> <p>3) 現地語教科書作成費 859千円 (番組制作及び制作技術分野の教材作成：スライド、スチール写真及びTPシート等)</p> <p>4) 視聴覚教材作成費 1,032千円 (OB・Vanを主テーマとしたAV教材作成：各種装置の装置方法及びロケにおける映像美学・手法)</p> <p>計 4,157千円</p>	<p>平成元年度の左記計画のうち、特に3)及び4)につき、その詳細を聴取するとともに、必要に応じ、技術的な観点から指導、助言を行う。</p>	

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針（案）
<p>3. チリ側プロジェクト実施体制</p> <p>(1) 管理運営組織（現状）</p> <p>プロジェクト組織図</p> <p>プロジェクト・コーディネーター</p> <p>チリ・カトリック大学</p> <p>TELEDUC</p> <p>チリ側プロジェクトマネージャー</p> <p>チリ側プロジェクトマネージャー</p> <p>日本側チーフアドバイザー</p> <p>日本側チーフアドバイザー</p> <p>プロジェクト・コーディネーター</p>	<p>カトリック大学及び教育テレビ局・組織図（略図）</p> <p>JUNTA CONSEJO SUPERIOR 理事会</p> <p>RECTOR 学長</p> <p>SUB RECTOR ECONOMICA 経済学長 (経済担当)</p> <p>SUB RECTOR ACADÉMICA 副学長 (教務担当)</p> <p>JUNTA JEFE DE CATEDRÁTICO 教授会</p> <p>TELEDUC (Director Sr. A. Gomez) 教育テレビ局 (局長)</p> <p>COORDINADOR ACADÉMICO 教育放送内容担当</p> <p>COORDINADOR ADMINISTRACIÓN 学務、経理担当</p> <p>EQUIPO DE PRODUCCIÓN 制作委員会</p> <p>CANAL 13 13 局</p> <p>-----TELEDUC (以下はチリ側)</p>	<p>(1) 左記組織図及び責任者の変更の有無を確認するとともに、指揮命令系統の流れ及び実施上の問題点を調査、把握のうえ、必要な指導、助言を行う。</p> <p>(2) TELEDUC における要員の配置状況を確認するとともに、プロジェクトの円滑な運営の観点から不十分と思われる部分があれば適宜増員等、所要の申し入れを行う。</p> <p>(3) 供与機材の維持、管理体制を確認する。</p> <p>(必要に応じミニッツ締結)</p>

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針(案)
<p>術・管理面から関係者である教育省担当者、チリ・カトリック大学学長、TELEDUC 局長、TVuc 局長、TVuc や TELEDUC の他の関係者に対して必要な報告や助言を与えることができる。</p> <p>4) プロジェクトを円滑かつ効果的に推進するためにジョイント・コミッティーを設け、年1回以上開催する。そのメンバーは、委員長がチリ・カトリック大学学長のほか、チリ側の委員は、教育省責任者(担当者)、TELEDUC 局長、TVuc 局長、その他プロジェクト関係者。日本側の委員は、チーフアドバイザー、コーディネーター、他の専門家、必要に応じて JICA から派遣される関係者、チリ・JICA 事務所の責任者で構成する。</p> <p>このほか、オブザーバーとして、日本大使館の担当者及び国土計画庁(ODEPLAN)の責任者は、本委員会に出席することができる。</p> <p>(2) 予算 88年11月19日現在、判明している本プロジェクト向けチリ側ローカルコスト支出状況は下表のとおり。</p>		<p>(1) 88年度 TELEDUC 予算執行額及びその詳細内訳(財源、支出費目等)を資料入手のうえ確認する。</p> <p>(2) 88年度 TELEDUC 予算の確保及び執行状況の詳細を資料入手のうえ確認する。</p>

調査確認事項及び問題点等		現地における対応措置			計画打合せ調査団の対処方針(案)
予算項目	予算額		支出額		支出内容
	(現地通貨)	(百万円)	(現地通貨)	(百万円)	
雑役務費			70,000	0.04	携行機材引き取り カトリック大学内、及びチャ ンネル13内執務室に各専門家用 事務机、及び椅子、各部屋に机 を設置
管理費			578,114	0.32	
			450,000	0.24	
			1,098,114	0.60	秘書増上
					合計

(3) 89年度予算計画立案にあたってのTELEDUCの基本方針を聴取する。
(具体的聴取項目は、下記4. TELEDUC将来計画の項参照)

(注) 会計年度開始月： 1月、 換算レート： US \$ 1 = 243.50 ペン(現地通貨)、 US \$ 1 = 134.35円(11月レート)

(3) カウンターパート(C/P)配置

経過年数	＜凡例＞ 当初計画 —— 実施計画 ~~~ 実績		
	1 年 目	2 年 目	3 年 目
年 月	1988年	1989年	1991年
相手国側投入計画と実績			
カウンターパート ALFONSO GOMEZ M. (TELEDDUC局長/C.G.) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	7/1 8/24		6/30
RICARDO DE LA FUENTE (番組制作) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	7/1 8/24		6/30
BEGONA BOFILL (番組制作) < 63. 11. 22 ~ 66. 6. 30 >	7/1 11/22		6/30
JORGE BRAIDOT (番組制作)	7/1		6/30
JAMES O'BRIAN (番組制作)	7/1		6/30
MARIANO SURANO (番組制作)	7/1		6/30
RAFAEL RICHARD (制作技術)	7/1		6/30
SERGIO FLORES (制作技術) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	7/1 8/24		6/30
LUIS SILVA (制作技術) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	7/1 8/24		6/30
ALBERT ARAYA (制作技術)	7/1		6/30
JOSE ONATE (制作技術)	7/1		6/30

調査確認事項及び問題点等		現地における対応措置			計画打合せ調査団の対処方針(案)
経過年次	1年目	2年目	3年目		
年月	1988年	1989年	1990年	1991年	
CLAUDIO GOMEZ. (C・G) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	7/1 8/24			6/30	左記カウンタパートの配置状況(人数、質及びステータス等)を確認するとともに、今後のプロジェクト実施計画(技術移転計画を含む)等を勘案のうえ、適宜増員、早期配置等所要の措置をとるよう申し入れを行う。 (ミニッツ締結)
LUIS ANDRES MENESES M. (C・G) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	8/24			6/30	
MARCELO MIRAMDA (C・G) <	7/1			6/30	
MARIA PABULINA DOMINGES (調査・研究) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	7/1 8/24			6/30	
FRANCISCO GARCES (調査・研究) < 63. 8. 24 ~ 66. 6. 30 >	7/1 8/24			6/30	
(現状)	上表のとおり現在までのカウンタパート配置実績は局長1名、番組制作2名、制作技術2名、C・G2名、調査・研究2名の計9名。 (計画上は16名)				
(問題点)	1) 上記1.のとおりディレクターの配置が1名のみであり、番組の質の低下は避けられない状況である。 2) カウンタパートの英語力に難があり、現状では西語で技術移転を行わなければならない。 3) 専用スタジオ・専用スタッフの未確保により				当局に対し、増員方を請済み。

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置												計画打合せ調査団の対応方針(案)																																																																														
<p>り、日常業務に追われる現状の中で専門家とカウンターパートとの接触がままならず、OJT方式での技術移転に多少の障害がある(番組編成、制作分野)。</p> <p>(4) 施設・建物等(現状)</p> <table border="1" data-bbox="523 840 577 1915"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学側事務室</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>TELEDUC側事務室</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>編集機室</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>C・G室</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>OB・Van 駐車場</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	大学側事務室													TELEDUC側事務室													編集機室													C・G室													OB・Van 駐車場													<p>各種施設・建物の整備状況を把握するとともに、問題点等があれば、適宜所要の措置につき申し入れを行う。</p>												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																															
大学側事務室																																																																																											
TELEDUC側事務室																																																																																											
編集機室																																																																																											
C・G室																																																																																											
OB・Van 駐車場																																																																																											
<p>(問題点)</p> <p>1) C・G用室の容積変更について R/D時の部屋寸法が実際には、16%減となり、供与のC・G設置に問題を生じた。</p> <p>2) オフィスの確保について TELEDUCの性格上、母体のチリ・カトリック大学と制作部門のTVuc(CH13)の2カ所にオフィスの確保が必要。大学のオフィスは3Fの小部屋で、大通り</p>	<p>日本側に機器の寸法の再検討を依頼し、当地においても、レイアウト委員会(仮称)を開き、C・Gの使い勝手を追求。レイアウトの整理を行う。</p> <p>前述のとおりチリ側によりスペースの拡張が行われ本件解決済み。</p> <p>局長GOMEZ氏と数回の交渉の末、副学長の決裁で防音装置付きの従来の3倍の広さの部屋を確保。一方、TVucは、リーダー用オフィスと専門家オフィスの2室を確保。</p>																																																																																										

調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針(案)
<p>に面し、採光、騒音、居住性に欠け、TVucのそれは倉庫同然とした所が割り当てられた。(TELEDUC施設の変更)</p> <p>この1年でTVuc(CH13)局が経済的に大きく発展したことで、長期調査結果と大きな食い違いが生じている。例えば、昨年末の調査時にはTELEDUC専用スタジオの運用を行いたいとのことであった。しかし、現在、照明器具のみならず、カメラ・音声を含むすべての機材が設置される方向で、建設が遅れながらも具体的に準備されている。</p> <p>4. TELEDUCの将来計画(88年以降の3カ年計画)</p> <p>(1) 番組の拡充と編成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放送時間の拡張 2) 外国からの番組輸入 3) 質の向上 <ol style="list-style-type: none"> ① 調査・研究分野との連携 ② 制作技術 (2) 登録学生数、テキストの拡充 教員対象の訓練構想 (3) 予算計画 (4) 要員計画 <p>TELEDUC自前の制作チームの拡充</p>		<p>左記TELEDUCの将来計画は、本プロジェクトの位置づけ及び今後の我が方協力計画の方向等を探るうえで極めて重要な指針になるものと思料される。ところで、右計画の詳細(変更の有無を含む)及び今後の展望等につき聴取するとともに、本計画について可能な範囲で必要な助言を行うこととする。</p>

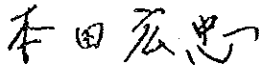
調査確認事項及び問題点等	現地における対応措置	計画打合せ調査団の対処方針(案)
<p>(5) 新番組開発計画</p> <p>1) 科学と技術に関する番組</p> <p>2) 成人のための継続教育に資する番組</p> <p>3) 家庭生活を向上させる番組</p> <p>(上記は87年11月派遣した長期調査チームに対し、チリ側から提案された原案の概要)</p> <p>5. ミニッツ</p>		<p>(1) ミニッツ使用言語：英語</p> <p>(2) ミニッツ署名者</p> <p>1) チリ側：チリ・カトリック大学学長</p> <p>2) 日本側：本調査団団長</p> <p>(3) 主要確認事項</p> <p>前記1～4の対処方針に基づき、以下の主要項目につき、協議、確認を行う。</p> <p>1) 現在までの技術協力計画の進捗及び実施上の問題点</p> <p>2) 今後の技術協力計画</p> <p>3) プロジェクト運営に係るその他事項</p>

THE MINUTES OF THE MEETINGS BETWEEN THE JAPANESE
MUTUAL CONSULTATION TEAM AND THE AUTHORITIES
CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF
CHILE ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE EDUCATIONAL TELEVISION PROJECT IN THE
REPUBLIC OF CHILE.

The Japanese Mutual Consultation Team organized by Japan International Cooperation Agency and headed by Mr. Hirotada Honda visited the Republic of Chile from April 2, 1989 to April 11, 1989 for the purpose of discussing with the authorities concerned of the Republic of Chile on the progress and future activities plan of the Educational Television Project in the Republic of Chile, and held a series of working sessions.

The attached minutes of the meetings are intended to record the main discussions concerning the implementation of the Project.

Santiago, April 11, 1989



Mr. Hirotada Honda
Leader,
Mutual Consultation Team
Japan International Cooperation Agency, Japan



Dr. Juan de Dios Vial Correa
Rector,
Catholic University of Chile
Republic of Chile

THE ATTACHED DOCUMENT

1.- PROJECT MANAGEMENT

- 1.1 The Japanese team and the Chilean side acknowledge that the Project is still going through a preparation stage and that 1989 will be the year when full scale implementation will actually begin.
- 1.2 Both sides agree that counterpart training in Japan has served to promote mutual understanding regarding Program Production and Broadcasting of Educational Television, and that it has facilitated communication between the Japanese and the Chilean counterpart.
- 1.3 The Japanese team expresses that the Chilean side has made its utmost effort to provide the necessary facilities for the smooth and effective implementation of this Project.
- 1.4 The Chilean side expresses that the Japanese experts have made their best efforts in order to transfer their knowledge and experience to the Chilean counterparts.
- 1.5 The Japanese team appreciates the efforts done by the Chilean side in order to assign counterparts necessary for the implementation of this Project, and also requests for further efforts to increase personnel acting as counterpart.

2.- ANNUAL PLAN FOR 1989

- 2.1 Both sides agree to approve the Activity Plan for 1989 included as an Annex.
- 2.2 The Japanese team recommends that the organization of the Television Production Group and the current technical support should be reorganized in such a way as to create better conditions for the smooth implementation of the Project.
- 2.3 The Japanese team recommends that the technology acquired by the Chilean personnel as a result of this Project should be more extensively shared among all members of the Television Production Group.

3.- OTHER ISSUES

- 3.1 The Chilean side requests to the Japanese team for the burdening of local costs necessary for the implementation of the research and survey activities associated with the Project. To that effect, The Chilean side expresses its readiness to submit a formal proposal to JICA whenever necessity arises.
- 3.2 The Chilean side recognizes that improving its current budget allocation system will facilitate better planning of its activities, thus resulting in smoothing the implementation of this Project. fou

3.3 The Chilean side requests to the Japanese team for the provision of equipment as described below.

- 8Cam VTR.
- Wireless Intercommunication System.
- Camera Crane.
- Camera Dolly.
- Battery Light Set.
- 8 mm Professional Type Editing System and Camera.
- Mavica Still Image Recorder.
- Electronic Telop Upgrade.

4.- **CONCLUSION**

The Director of the Catholic University Center for Distance Education, TELEDUC expresses his gratitude to the Japanese Mutual Consultation Team for the spirit of cooperation and support exhibited by all its members.

ACTIVITY PLAN FOR 1989 (*)

ANNEX

	APRIL	MAY	JUNE	JULY	AUG.	SEPT.	OCT.	NOV.	DEC.	JAN.	FEB	MARCH
Educational Television Planning and Production	Research for sample program	Research & Planning of sample program	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	Exploration of use of 8 mm technology	Production of sample program	Production of sample program	Production of sample program	Evaluation meeting	Evaluation meeting	Research of sample program
Television Production Engineering	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	Production of sample program	Production of sample program	Production of sample program	Lighting techniques training	Evaluation meeting	Evaluation meeting
Computer Generated Television Images			Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Operation of electronic painting equipment. Production of 3D C.G. animation	Operation of electronic painting equipment. Production of 3D C.G. animation	Operation of electronic painting equipment. Production of 3D C.G. animation	Operation of electronic painting equipment. Production of 3D C.G. animation	Evaluation meeting	Evaluation meeting	Evaluation meeting
Research and Survey on Educational Television	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1/90	2/90	3/90

(*) This plan is formulated tentatively on the condition that necessary budget will be allocated. The schedule is subject to change within the framework of R/D, if necessity arises in the course of implementation of the Project.

附 屬 資 料

附 屬 資 料

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

	APRIL	MAY	JUNE	JULY	AUG.	SEPT.	OCT.	NOV.	DEC.	JAN.	FEB	MARCH
Educational Television Planning and Production	Research for sample program	Research & Planning of sample program	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques	OB VAN Operation techniques
Television Production Engineering	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques	Editing System Operation Techniques
Computer Generated Television Images	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.	Installation of Equipment and Introduction to C.G. equipment operation.
Research and Survey on Educational Television	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research	Discussion and Planning of Research and Survey techniques for educational TV. Needs assessment survey for educational TV. Formative and summative research
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1/90	2/90	3/90

DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

Short Term Experts	APRIL	MAY	JUNE	JULY	AUG.	SEPT.	OCT.	NOV.	DEC.	JAN.	FEB	MARCH
Computer Generated Television Images						9/1	10/50					
Research & Survey on Educational TV												
Lighting Techniques							10/15	11/30				
Installation of Editing System					4/3	4/20						
Installation of Computer System						6/27	7/21					
Installation of OB Van						7/3	7/14					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1/90	2/90	3/90

TRAINING OF CHILEAN PERSONNEL IN JAPAN

	APRIL	MAY	JUNE	JULY	AUG.	SEPT.	OCT.	NOV.	DEC.	JAN.	FEB	MARCH
Educational TV Program Planning and Production										1/1	2/28	
TV Production Engineering										1/1		3/31
Computer Generated Television Images		5/4	7/26									
Research & Survey on Educational TV		5/4	5/30									
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1/90	2/90	3/90

JICA

